

『今さら聞けない鉄道の基礎知識』シリーズの第2巻「鉄道写真」発売

第1巻「貨物列車」で話題を集めた新シリーズの最新刊を発売します。

株式会社交通新聞社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：伊藤嘉道）では2024年8月、『今さら聞けない鉄道の基礎知識002 鉄道写真』を発売します。

『今さら聞けない鉄道の基礎知識』シリーズは、「JR時刻表」や「鉄道ダイヤ情報」など、鉄道の情報を発信し続けてきた長年の視点をもとに、氾濫する現在の鉄道の情報を整理し、一つのテーマについて、基礎から応用までを簡単にまとめた新趣向のシリーズです。お子さまや学生の興味の入口に、中高年の学び直しに、近年のインターネットに頼る知識網に戸惑う多くの人に贈る、基礎情報本です。第1巻は「貨物列車」を2024年4月に発売し、話題を集めました。

その第2巻は老若男女問わず親しむ人が最も多い「鉄道写真」。

なお、NFT特典や掲載写真を用いたスマホ用壁紙ダウンロードサービスなど、メディアミックスのコンテンツも盛り込み、一冊の本を2倍、3倍でお楽しみいただけます。

今さら聞けない鉄道の基礎知識 002

鉄道写真

その歴史から技術、楽しみ方、活用法まで

米屋 こうじ *Yoneya Koji*

FanTop

NFT

デジタル特典つき

電子書籍
+
本書未公開の
写真集

(取得期限)
2026年8月15日



■“そもそも”から解説

そのテーマについて、「そもそも、それは何？」という点から解説しています。それまで、そのテーマについて興味が無かった人でも、一から読めるような構成です。

1-01

撮る とは？

◎◎◎◎◎

ひとはなぜ写真を撮りたがるのか？

観光地へ出かけると、目の前の風景に多くの人がカメラを向ける様子が見られます。とりわけ、昔から日本人は写真

好きと言われています。世界のカメラ産業のなかで、日本のメーカーが多くのシェアを占めているのも理由のひとつかも

もうすぐ見られなく死蔵や怪しいシーンなどは、鉄道ファンではなくても写真に撮って残したくなるもの。東海道・山陽新幹線の500系電車が1のぞみでの運行を終えるころ、有楽町駅前の東京交通会館にある屋上庭園「有楽町コナース」では、連日カメラを構える人びとの姿が見られた

2010.2 東海道新幹線東京～品川 Full frame Digital-35mm・1/2000-F8-ISO200-Daylight



第1章 写真とは

知れません。

カメラが小型化し、一般に普及したのは1950年代になってから。2000年代に入りデジタルカメラが登場し、瞬く間に浸透してゆきました。今日ではスマートフォンなどで、誰もが気軽に写真撮影を楽しめるようになりました。

特別な場所や風景でなくとも、テーブルに運ばれてきた料理や、友達との何気ない集合写真も撮影するでしょう。写真撮影は無意識のうちに、日常生活のなかに溶け込んでいると言えます。

では、なぜひとは写真を撮りたがるのでしょうか？

もちろん、写真を撮る動機は個々それぞれにあると思いますが、大きくはふたつの要素に分けられそうです。

ひとつは「記録に残したいから」。

写真は目の前を過ぎる一瞬の時間を画

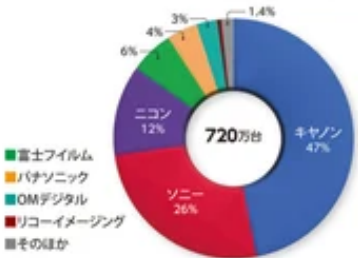
像として切り取り、永遠に止めてしまうものです。撮ることで、過去の瞬間を一枚の画像として手元に残すことができるのです。

一生の記念的なイベントから状況をメモ程度に撮る一枚まで幅広く、そこには写真のもつ根源的な記録媒体としての性質が存在しています。

もうひとつは「感じたことを撮り、誰かに伝えたいから」。

アートを自覚した写真や、テーマを持って取り組むドキュメントフォトなどもこの部類に入るでしょう。SNSで発信する何気ない一枚も、撮影者が感じた事柄にカメラを向けているものです。撮影し、即座に発信する一連の流れもこれに当てはまります。そこには写真の持つコミュニケーションツールとしての性質が表れています。

デジタルカメラ・ビデオカメラメーカーの世界シェア（2022年）



メーカー	シェア (%)
キヤノン	47%
ソニー	26%
ニコン	12%
富士フイルム	6%
パナソニック	4%
OMデジタル	3%
リコーイメージング	1.4%
その他のほか	1.4%

■図を活用

写真や動画で説明されることが多い昨今、要点のみに集約した書き起こしの図も活用して、分かりやすく解説しています。

カメラの基本

カメラの構造

始まりはカメラオプスキュラ

レンズなどの光学機器を用いて、画像や映像を映し出す装置がカメラです。本書では、二次元の静止画を写す、いわゆる「スチールカメラ」をカメラと表すことにします。

カメラの起源はカメラオプスキュラ（Camera Obscura）と呼ばれ、紀元前から存在していました。これは暗い部屋の壁や屋根に穴を開け、壁などに像を映す

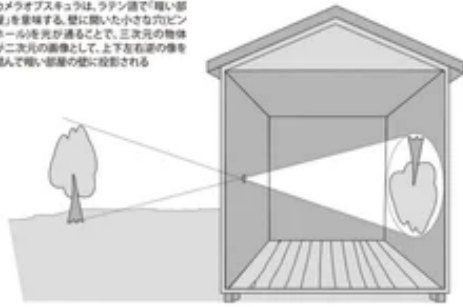
ものです。16世紀のレオナルド・ダ・ヴィンチの時代にはすでに確認されていたといえます。

戸外にある三次元の物体が二次元の映像となって投影されますが、映し出された像は、上下左右が逆になります（図1参照）。

初期のカメラオプスキュラに光学機構はなく、ピンホールカメラの構造だったのですが、16世紀なかばには、イタリアのジョヴァンニ・バッティスタ・デッ

■1.1 カメラオプスキュラ(Camera Obscura)

カメラオプスキュラは、ラテン語で「暗い部屋」を意味する。壁に開いた小さな穴（ピンホール）を光が通ることによって、三次元の物体が二次元の映像として、上下左右逆の像を壁に暗い部屋の壁に投影される。



020

ラ・ポルタが穴に凸レンズを取り付けることで、より鮮明な画像が得られることを発見していました。画像をトレースすることで、写実的な絵を描くことができるため、当時の画家たちが盛んに活用していたといえます（図2参照）。

画像を感光性物質に定着

18世紀なかばからの産業革命の時代には科学技術も発達し、さまざまな発明、発見があるなかで、光の作用で変化を生じる「感光性物質」が発見されます。カメラオプスキュラで映し出された画像を、感光性物質に定着するといふ、カメラの原型が考案されました。研究が進み、ダゲールが銀板写真を1839年に学会で発表、フォックスタルボットが1941年にカロタイプの特許を取得するなど、実現化されていきました。

その後、カメラやレンズは大幅に技術発展し、小型化とともに普及。高性能化も進み、21世紀の現在ではデジタルカメラが広く使用されるようになっています。

今日まで長い歴史を経て来ましたが「レンズが描き出した画像を、絞りやシャッターでコントロールし、フィルムやイメージセンサーが受け取り記録する」といふ、カメラの基本的な構造に変わりはありません。

フィルムカメラはカメラにフィルムを装着して撮影、撮影後に取り出して現像する工程が繰り返行われます。

デジタルカメラは、あらかじめカメラ内にイメージセンサーが組み込まれており、レンズからの光を受けた感光素子が電気信号に変換。電気信号は画像処理プロセッサ（画像エンジン）に送られ、処理されることで画像データが生成される仕組みです。

画像データはSDカードなどの記録メディアに保存され、撮影後にデータを取り出す工程が繰り返されます。



■1.2 入射孔に絞りや凸レンズを取り付けたカメラの原型

カメラオプスキュラの穴に凸レンズを取り付けることで、画像が鮮明になることを発見。時代を遡ることに反射鏡や絞りを取り付け、より高画質でコンパクト化されていった。

①反射鏡 ②入射絞り ③凸レンズ
④テーブル上の外景の映像

021

■コレクションカード+デジタル特典付き

付録のコレクションカードはそれだけでも楽しめますが、カード裏面の二次元コードを読み取ると、NFTデジタル特典として本書の電子版と本書未掲載の写真集「夜行列車の時間」がもらえます。さらに、一部の掲載写真を用いた壁紙ダウンロードサービスなど、スマホでも楽しめる特典もご用意しています。紙の本+電子付録のメディアミックスをお楽しみください。



交通新聞社オリジナル「コレクションカード」（表）

N700S

東海道・山陽新幹線の最新形式で、2018（平成30）年に先行試作車が登場して以降、両数を増やし、「のぞみ」「ひかり」「こだま」、さらには8000番代が西九州新幹線「かもめ」で活躍している。人気の車窓のひとつに富士山があるが、鉄道撮影地としても同じ。日本一の標高を持つだけに、富士山を背景に列車を撮影できるスポットは点在しており、整った画角で撮りやすい、いわゆる定番と呼ばれる撮影地も数多い。列車のみならず、刻々と変わる山容もまたいい被写体となり、撮影の楽しみには事欠かない地域である。

JR東海鉄道・JR西日本商品化戦略

N700S DATA

製作年：2018年（先行試作車）、2020年～（量産車）
電圧方式：交流25,000V・60Hz
VVVFインバータ制御
全長：27,350mm（先頭車）、25,000mm（中間車）
全幅：3,360mm
全高：3,600mm（中間車）
最高速度：300km/h（山陽区間）
軌間：1,435mm
運行線区：東海道・山陽・西九州新幹線

引き換えコード **0000 0000 0000 0000**

※QRコードが読み取れない場合は「<https://fantop.jp/redeem/>」へアクセスして、引き換えコードを入力してください。
※1つの引き換えコードにつき、取得は1回限り有効です。

交通新聞社オリジナル「コレクションカード」（裏）

【NFTデジタル特典：本書未掲載の写真集「夜行列車の時間」（20ページ）】

古来、夜は、昼と連続性の無い、別の物と考えられていました。夜行列車に乗った時に見られる多くの鉄道シーンを、時間に沿って、古語の味わいとともに展開します。夜行列車が減った現在、夜通し走り通した夜行列車の時間と威厳を感じていただく、独特の写真集です。

撮影データ

絞り値：f3.5
シャッタースピード：1/80秒
ISO速度：ISO-2500
焦点距離：400mm

NFT別冊

夜行列車の時間

A moment of day and night

写真：米屋こうじ

古来、夜は、昼とは連続性の無い、別の物と考えられていた。
つまり、昼は人の時間、対して夜は神の時間だ。
夜は闇で人の行動を遮る反面、
人はその中から、想像力を育て上げてきた。
近代、「灯り」の発達によって昼が夜に入り込み、
次第にその区別があいまいになって今日に至るが、
身体に染み込んだ夜の記憶を蘇らせてくれる存在…。
それが、夜行列車の時間だった。

撮影データ

シャッタースピード：1/400秒
ISO速度：ISO-800
焦点距離：50mm



NFTデジタル特典をお楽しみいただくためには、株式会社メディアドゥが運営する『FanTop』の会員登録と、スマートフォン・タブレット専用アプリが必要です（いずれも無料）。

そのほか、一部の掲載写真を用いたスマホ用壁紙全3種のダウンロードサービスもご用意しています。紙の本＋電子付録のメディアミックスをお楽しみください。

スマホ用
壁紙

Sample



価格 2,200円（税込）

発売日 2024.08.20

サイズ／判型 A5型（210mm×148mm）

ページ数 本文128ページ

ISBN 978-4-330-03124-8

株式会社交通新聞社について

『J R時刻表』『旅の手帖』『散歩の達人』『鉄道ダイヤ情報』などの月刊誌、鉄道関連書籍・新書・児童書などの出版のほか、Webメディア『トレたび』『さんたつ』を運営。

【会社概要】

社名：株式会社交通新聞社

本社所在地：東京都千代田区神田駿河台2-3-11

代表取締役社長：伊藤嘉道

HP：<https://www.kotsu.co.jp/>

【本件に関するお問い合わせ】

株式会社交通新聞社

編集03 - 6831 - 6560

販売03 - 6831 - 6622

【商品のご購入について】

全国の書店および各種ECサイトにて

取り扱いサイトは交通新聞社HP内の各商品ページからご確認いただけます。

当プレスリリースURL

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000070.000050139.html>

株式会社 交通新聞社のプレスリリース一覧

https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company_id/50139